

7 名古屋市における新生児医療システムの実態

小川 雄之亮 清水 国 樹
(名古屋市立大学医学部 小児科)

私達は53年1月より、名古屋市立大学小児科と名古屋市内の未熟児室をもつ関連病院、ならびに市外ではあるが新生児室をもち、搬送車を持つ愛知県コロニー中央病院との間で新生児、未熟児の入院に関し互に情報をかわすシステムを発足させた。

大多数の入院依頼は大学の未熟児室に電話でなされるため、空床状況を大学未熟室において大体把握し、入院依頼に対し適確な指示を与えようとするものである。

今回の報告は実施した1年間のまとめである。大学において依頼電話をうけ指示する者は未熟児室勤務医、及び当直者である。

名古屋市内の主な関連病院は4施設で、常勤小児科医は2人～7人で、1施設を除き独立した看護単位をもっている。

53年の1年間に大学に入院依頼のあった例数は表1に示すごとく220例でこのうち106例は大学で入院可能であったが、このシステムにのっとり関連施設へ入院依頼した例数は114例と多くを数え、大学に入院せしめた数を上まわる。1ヶ月に約10人の児がこのシステムでどこかの病院に入院していることになる。

原則として体重の小さい児、在胎週数の短い児を大学でうけるようにしているため220例のうち145例が低出生体重児であるがこのうち85例が大学に入院している。

低出生体重児145名は、名古屋市内で出

生した低出生体重児が昭和51年の統計で1966名なので、7.3%にしかあたらない。これを1.9kg以下の出生児390名との対比でみても145名の入院は37.1%にしかあたらない。

このシステムにのった例数も含め各病院の施設外入院の合計は827名であるが、コロニー中央病院は多くを名古屋市外の例数で占めるためこれを除くと450例で、このシステムで入院した児は、施設外入院合計の約中数を占めていることになる。

又施設外入院と施設内入院の割合をみると大学は他病院に比し施設外入院の割合が圧倒的に多い。

依頼施設の数は表2にみるように、統計で86施設であるが、このうち産科診療所からの依頼は名古屋市内の全産科診療所の40.3%にあたり、依頼例数の大部分がここに含まれることになる。

しかし、先に述べたごとく、名古屋市内の低出生体重児の出生数と依頼例数の割合から考えると、診療所をカバーしている割合には入院依頼がきわめて少ないことになる。このあたりにまだかくされた問題があるように思われる。

したがってこのシステムを公にした場合、私達のとっている受け入れ体制ではベットの不足は明らかである。

9時から17時までを時間内として、依頼

を受けた時の時間をみると、91例、41.4%が時間外ということになる。大学の当直者があたふたと関連病院へ電話をかけ空床をさがしている姿が目にかぶ。

日曜、祝日、正月とその前3日を含む6日間を休日として入院した日付からみると、53年は68日が休日であるが、29例がその休日あつかいとなる。

入院依頼のあった220例中判明している例についてのみ表3、4、5に示すごとき事項についてみてみた。

(5)は出生から入院までの時間で、207例に判明していたが、このうち116例、56.3%は生後3時間迄に、生後12時間迄には81.6%が入院していることがわかる。

(6)は出生から入院依頼までの時間であるが

大学へ入院した児は依頼時間の記載がないのこれを除くと86例が対象となり、このうち18例、20.9%は出生前より入院の依頼があり今迄にない現象である。今後pick upによる搬送を行う場合にも、又現体制下で空床をさがすにも好ましい傾向であると思う。この症例を合せた39例、45.3%が生後30分迄には入院依頼をうけていることになる。

(7)は入院依頼をうけた時間から児が入院するまでの時間で対象が69例であるが57例、82.6%は依頼後2時間以内に入院している。

なお220例中死亡例は32例で、昭和51年の名古屋市の新生児死亡188名の17%に相当する。

以上、私のとっているシステムの実体について述べた。

表 1 収 容 状 況 (昭 和 5 3 年)

病 院 名	システム扱い件数	施設外入院	施設内入院	計
J	35 (低出生体重児32)	139	125	264
H	25 (" 18)	111	51	162
N	18 (" 14)	52	64	116
R	22 (" 14)	36	50	86
M	106 (" 85)	106	23	129
T	3 (" 3)	6	17	23
O	6 (" 4)			6
K	5 (" 4)	377		377
計	220 (" 145) (大学外依頼) (60) 114	827	330	1157

表 2 依 頼 施 設

	依頼施設数	市内施設数	割 合 (市内のみ)
国・公立病院産科	22 (名古屋市外6)	30	53.3%
産科診療所	64	159	40.3%
助産所	6	38	15.8%
計	86	227	37.9%

表 3 システム扱い例における出生より入院迄の時間

時間	例数
- 30分	5
- 1時間	35
- 90分	33
- 2時間	17
-150分	15
- 3時間	11
- 4 "	12
- 5 "	8
- 6 "	7
- 7 "	5
- 8 "	6
- 9 "	4
-10 "	3
-11 "	4
-12 "	4
-24 "	13
- 2日	5
3日-	20
計	207

40 (19.3%)
90 (43.5%)
116 (56.3%)
169 (81.6%)

表 4 システム扱い例における出生より入院
依頼迄の時間 (大学への入院例は除く)

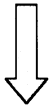
出生前	時間	例数
2時間-	-	5
-2時間	-	3
-1 "	-	3
-30分	-	7
出生後	-15分	5
-30 "	-	16
-45 "	-	6
-1時間	-	8
-90分	-	4
-2時間	-	5
-3 "	-	-
4 "	-	4
5 "	-	1
6 "	-	1
6時間-	-	18
計	-	86

18 (20.9%)
21 (24.4%)
39 (45.3%)

表 5 システム扱い例における入院依
頼より入院迄の時間 (大学への
入院例と出生前依頼例は除く)

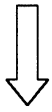
時間	例数
- 30分	4
- 45分	13
- 1時間	10
- 90分	21
- 2時間	9
-150分	5
- 3時間	1
- 4 "	3
- 5 "	1
- 6 "	1
6時間-	1
計	69

27 (39.1%)
57 (82.6%)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



私達は 53 年 1 月より、名古屋市立大学小児科と名古屋市内の未熟児室をもつ関連病院、ならびに市外ではあるが新生児室をもち、搬送車を持つ愛知県コロニ-中央病院との間で新生児、未熟児の入院に関し互に情報をかわすシステムを発足させた。

大多数の入院依頼は大学の未熟児室に電話でなされるため、空床状況を大学未熟室において大体把握し、入院依頼に対し適確な指示を与えようとするものである。